



誰もが楽しく幸せに6年間を過ごせる別府小学校
～全ての子どもに居場所がある学校づくり～
～学校だより夏休み号 巻頭言～

令和8年7月16日(木)
発行：摂津市立別府小学校
校長 河平 浩一

～「夏休みの一番大切な宿題」～

早いもので一学期も締めくくりの日を迎えようとしています。校長になり2年目の春が終わり、気が付けば厳しい暑さの夏になりました。別府小学校の子どもたちは、毎日元気に登校し笑顔で過ごしてくれています。一人ひとり学びに、遊びに精一杯取り組んで、仲間とともに元氣よく成長してくれていることを、私たちは本当にうれしく思っています。

先日、14日に実施した全校児童の平和集会では、戦後81年を迎える今もなお世界各地で戦争や紛争が続いている現状に触れ、「平和とは何か」「命の大切さとは何か」について、子どもたちと一緒に考えました。

平和は、遠い国だけの話ではありません。家族や友達を大切にすること、自分自身を大切にすること、一人一人の命を大切にすること。その積み重ねが、平和な社会につながっていきます。

もうすぐ始まる夏休みは、ご家庭でも「命」や「平和」について話し合うよい機会です。ぜひ、お子様と一緒にニュースを見たり、「戦争はなぜ起きるのだろう」「平和な社会を築いていくために、私たちに何ができるだろう」などご家庭で話し合い考えていただければと思います。

さて、夏休みには学習の宿題や作品づくりなど、さまざまな課題があります。しかし、校長として子どもたちに伝えたい「一番大切な宿題」があります。

それは、「夏休みが終わった日に、元氣な笑顔で学校へ登校すること」です。

日本では、とりわけ夏休み明けは子どもたちの心の負担が大きくなりやすい時期と言われており、不登校につながったり、命に関わる深刻な問題が生じたりすることもあります。だからこそ、別府小学校では、子どもたち一人ひとりの命と心を何よりも大切に、「全員が笑顔で始業式を迎えること」を教職員一同の願いとしています。

別府小学校では、「誰もが楽しく幸せに6年間を過ごせる学校」をめざしています。そのために何よりも大切にしているのは、子どもたち一人ひとりが「ここにいていい」と思える安心できる居場所があることです。

どんな子どもにも、元氣が出ない日や悩みを抱える日があります。それは決して特別なことではありません。大切なのは、一人で抱え込まないことです。もし夏休み中に困ったことや不安なことがあれば、一人で抱え込まず、家族や先生、地域の方など、信頼できる人に相談してください。相談することは決して弱いことではありません。自分を大切にするための大切な力です。困ったときに周りの人へ助けを求める力を『受援力』と言います。

保護者の皆様におかれましても、お子様の小さな変化に耳を傾け、気になることがありましたら遠慮なく学校へご相談ください。

子どもたちにとって学校は、いつでも安心して帰ってこられる「居場所」でありたい。その思いを教職員全員で共有しながら、新学期の始業式には、一人一人の元氣な笑顔に会えることを心から楽しみにしています。

